

「国語総合」の指導と評価の工夫

第2集

前編

P 1 ~ P38

後編

P39 ~ P77

西辻 正副(文部科学省・国立教育政策研究所)

目 次

巻頭言	西辻 正副 (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官)	…… 1
はじめに	尾崎 肇 (千代田区教育委員会)	…… 2
「国語総合」の指導と評価の工夫		
I 17年度研究		
◇「国語総合」の指導と評価の工夫 —「年間の指導と評価の計画」の再構成—		
研究概要	小林 清香 (東京都立千早高等学校)	…… 4
年間の指導と評価の計画		…… 7
II 18年度研究		
◇系統性を重視した指導と評価のあり方 —国語総合「書くこと」から見た場合—		
研究概要	松原 志保 (東京都立国立高等学校)	…… 11
	小林 清香 (東京都立千早高等学校)	
C14 構成を確かめながら読む	木村 美保子 (東京都立広尾高等学校)	…… 17
	古宮 才由里 (東京都立八丈高等学校)	
	高井 秀実 (東京都立城東高等学校)	
	高山 実佐 (東京都立広尾高等学校)	
B07 説明文を書く	池田 美穂 (東京都立八潮高等学校)	…… 24
A03 討論する	小林 清香 (東京都立千早高等学校)	…… 39
	藤井 ゆき (東京都立中野工業高等学校)	
B08 意見文を書く	北川 すみれ (東京都立戸山高等学校)	…… 53
III 19年度研究		
◇ 研究の概要		
◇ 系統的・段階的な「関心・意欲・態度」の評価方法	藤井 ゆき (東京都立中野工業高等学校)	…… 63
◇ 「A 話すこと・聞くこと」の評価の実際		
	松原 志保 (東京都立国立高等学校)	…… 68
	小林 清香 (東京都立千早高等学校)	
	鈴木 直美 (東京都立千早高等学校)	
活動記録 (平成16年度全国連東京大会～平成20年度全国連東京大会)・会員名簿		…… 74
あとがき	廣瀬 愛 (東京都立千早高等学校)	…… 77

東京都立高等学校に勤務する国語科教員の有志の自発的な集まりである「国語実践の会」フロムT」が、全国高等学校国語教育連合会の第41回研究大会東京大会を機に、『「国語総合」の指導と評価の工夫 第2集』を世に問うこととなりました。本冊子には、平成17年度から20年度にわたる4年間の研究の成果が報告されています。

この会の特色は、「指導」と「評価」を一体のものとしてとらえ、仲間とともに、生徒の学習に資する評価、教員の指導の改善に資する評価について、実践的かつ継続的に研究しているところにあります。その成果は、次のような点に表れています。

まず、第1点は、身に付けたい国語の能力を基軸とした「年間の指導と評価の計画」の作成です。これは、第1集で既に世に問うているものですが、指導事項の系統性への配慮など改善を重ね、より一層日々の授業に役立つものとなっています。

第2点は、研究や研修の場で積極的に発表し、そこでの批評や助言を生かしながら、常に課題意識を明確にして研究を進めていることです。特に、学習意欲も学力であるとして意識的、計画的に指導し、「関心・意欲・態度」の観点から評価することについての報告は貴重な提案です。

第3点は、メンバーそれぞれが、自らの実践を記録としてとどめていることです。このことは簡単なようではなかなか継続しづらいものです。しかし、これがなければ指導と評価の改善は進みません。このことが可能であったのは、ともに学び、ともに歩む仲間がいたからこそでしょう。

ただ、「評価」についての研究と実践は、この冊子の報告でもお分かりになるように、改善を重ねれば重ねるほど、よりの確にという思いが募ります。しかし、それは負担の重さと表裏の関係でもあります。評価については、「評価の目的に応じて、評価する人、評価される人、それを利用する人が、互いにおおむね妥当であると判断できることが信頼性の根拠として意味を持つ」ということを忘れてはなりません。

指導と評価の一体化により、学校や教員は指導の説明責任だけではなく、指導の結果責任も問われています。このことを前提としつつ、だれもが、負担感なく実践できる指導と評価を目指しての取組が、本会のみならず、より広く展開していくことを期待しています。

## はじめに

### 1 「国語実践の会—フロムT」とは…

本会は平成14年秋に立ち上げられた、「東京都立高校国語科教員の自主勉強会」である。会の設立の趣旨として以下の点を掲げ、同年12月に第1回の会合が開かれた。

- 全国連（全国高等学校国語教育研究連合会）・都国研（東京都高等学校国語教育研究会）の研究活動の活性化を図る
- 10年後の東京（日本）の国語教育を担う人材の育成を図る
- 会員一人ひとりの授業（指導と評価）の改善を図る

また活動方針として、以下の点を掲げている。

- ① 研究テーマは提案性のあるものとする
- ② 活動を継続する
- ③ 生徒の国語力をつけると同時に教師自身の授業改善を図る
- ④ グループ研究とすることによって自己の実践をより深いものにする。
- ⑤ 東京から発信する（=from Tokyo）

以来、平成20年秋の現在まで通算60回以上の勉強会を続けている。全国連事務局の下部組織という位置付けではあるが、実態としては都立高校国語科教員による自主勉強会である。指導案検討や教材開発、国語教育について協議・意見交換することで、会員の授業力の向上を図っている。毎月1回の定例会を中心に活動しているが、19年度からは毎月第3土曜日に会員の所属校で2時間程度の例会を開き、その他に日常的にメーリングリストや掲示板でも意見交換を行っている。例年2月に行われている都国研の研究成果発表会でその年度の研究について発表することを目標に、継続的なグループ共同研究に取り組んでいる。会員の所属の異動等により入れ替わりはあるが、年度ごとに研究テーマを設定し、研究活動を継続している。

ところで、会の名称である「フロムT」であるが、これは、名称決定時（平成15年春）の会員の頭文字をつなげて作った、と私は聞いた記憶がある。しかし私は、“from T”とは先に挙げた活動方針⑤にある“from Tokyo”（東京から発信する）であり、“from Teachers”（日々生徒たちと向き合う授業実践者の立場から発信する）の意味であると考えている。

### 2 本冊子について

平成10年度に学習指導要領の改訂があり、高等学校国語科では「国語総合」が新設された。平成15年度からの実施に向け、会設立当初の研究テーマを「『国語総合』の年間指導計画及び学習指導計画の作成—目標に準拠した指導と評価の実現をめざして—」として活動を続けてきた。詳細は省略するが、16年度の全国連東京大会では、東京都立千早高等学校を会場に、研究授業と研究発表を行った。その際に『「国語総合」の指導と評価の工夫』という小冊子を刊行し、全国連東京大会参加者に配布した。それ以外にも関係各位のご協力によりさまざまな場面で配っていただいた。

本冊子はその続編の位置付けで「第2集」としている。例年2月に行われている都国研研究成果発表会の配布資料を元に、16年度東京大会以降の研究成果をまとめたものである。以下、各年度の概要を記すが、詳細は各々の章を参照されたい。

### 3 17年度研究

16年度までに、「国語総合」の「年間の指導と評価の計画」といくつかの「単元の指導と

評価の計画」を作成し、教材開発と検証授業に取り組んだ。検証の結果、計画の修正が必要であることがわかった。計画の汎用性を高めるとともに生徒の国語の力をつけるために「年間の指導と評価の計画」、「単元の指導と評価の計画」を再検討した。それらを18年2月に都国研研究成果発表会で発表した。

### 4 18年度研究

研究成果発表会では我々が提案した「年間の指導と評価の計画」について「系統性の検証が必要」との助言をいただいた。それを元にして研究テーマを以下の2点に設定した。

- ① 「年間の指導と評価の計画」の「B 書くこと」の系統性について、実践に基づいて検証する
- ② 「年間の指導と評価の計画」の単元相互の関連性について検証・提案する

これに基づき、会員も小グループに分かれ、それぞれ授業実践を持ち寄って定例会で協議を続けてきた。その成果を19年2月の都国研研究成果発表会で発表した。

### 5 19年度研究

19年2月の研究成果発表会では「関心・意欲・態度」の評価のあり方について助言をいただいた。また、これまでの研究で課題となっていた点については会員からも問題提起がなされた。本会で作成した「年間の指導と評価の計画」の目標に準拠した評価・評定のあり方を検証する、という方向性は継続しつつ以下の3点を19年度の研究テーマとした。

- ① 系統的・段階的な「関心・意欲・態度」の評価方法の検討・検証
- ② 「A 話すこと・聞くこと」の評価の実際—「討論する」を例にして—
- ③ 「C 読むこと」領域の系統性の検証

これらについて小グループでの分科会と全体会を繰り返しながら協議を行ってきた。20年2月の研究成果発表会ではそのうち①・②について発表にまとめ、③については今後も継続的に教材開発を含めた授業研究を行っていくこととした。

### 6 20年度研究

20年度は東京大会の年度ということもあり、研究と同時に発表準備も進めなければならない。研究は19年度①のテーマが、「検討」の段階でとどまっていた検証ができていなかった。このテーマについて授業実践を通して検証していくことが課題である。②のテーマについてはこれまで16年度東京大会でも扱い、以降継続的に研究を進め、今回の東京大会で整理して発表すべく準備を行ってきた。③についても継続的に指導実践例を集め、ある程度のまとまりをつけることが課題である。

### 7 むすび

今回「第2集」を刊行することができた。他県には毎年1冊研究集録を発行している勉強会もあると聞いている。そのような勉強会に敬意を表するとともに、本会もそのような活発な研究活動を目指していきたい。学校現場の多忙がいわれる中、自主的に教科の研究活動を続けていくことに困難を感じながらも、冊子を継続的に発行することも目標の一つにして今後も活動を続けたい。本冊子が多くの方の手に取られることによりご意見ご指導を賜り、国語科教員の授業力の向上と生徒の国語の力の育成が図られることを祈りつつ、筆を擱くことにしたい。

(尾崎 肇)

「国語総合」の指導と評価の工夫  
—「年間の指導と評価の計画」の再構成—

1 「年間の指導と評価の計画」作成の基本的な考え方

「評価で授業を変えよう」—指導と評価の一体化—

どのように指導すれば目標とする力が生徒に身に付くのか、目標を明確にし、計画を立て、その実現を図ることは、指導の基本である。しかし目標が実現しなかった場合に、生徒の能力不足であると評価して指導が完結するか、それを反省して指導を改善するかの間には、大きな隔りがある。評価して指導が終わるのではなく、指導のどこに欠点があるのか、どこを工夫すればよかったのか、指導内容・方法を再検討し、次の指導につなげていく、この一連の流れ・循環が指導と評価の一体化であり、私たちの研究主題の一つでもある。

指導と評価の一体化を目指す学習活動の具現化には、年間の指導と評価の計画が欠かせない。単元の配置に工夫がなければ、評価を生かした指導を行うことはできない。年間を通して、単元の位置づけに配慮した指導計画を作成することが、生徒の学習改善だけでなく、指導の改善にもつながる。また作成には、(当然ではあるが)学習指導要領の指導事項を考慮することが必要である。

2 改訂の理由

2004年に私たちが作成し発表した年間の指導と評価の計画は、学習指導要領に示された目標、内容、言語活動例、指導時数の目安等を踏まえて単元を構成している。また言語能力の育成という立場に立ち、領域・内容等が有機的に積み上げられていくようお互いの関連性に配慮して作成した。

しかしそのように考え作成した計画も、実際に授業を展開すると単元の時間数に不足が感じられたり、また逆に指導内容を工夫すれば時数短縮のできる単元もあつたりと、再検討すべき課題が生じた。加えて領域内での配置の工夫や領域ごとの関連性を見直す必要があるという意見も多く出された。そこで各校の実状等を話し合い、「年間の指導と評価の計画」を再検討・再構成することとなった。

3 改訂の概要

A領域では5から3に単元数を減らし、単元ごとに時間数を多くした。A領域に関しては、集中的に指導し力をつけるという意味と、短い時数だと評価しづらいという意見から今回の変更に至った。

前回B領域は、学習指導要領にある活動例7単元に広告文を加えた8単元で構成した。今回は、手紙文と通知文をまとめて定型文として扱うことと、創作的な要素を増やすため随筆文を加えた8単元で構成した。領域内の軸としては、短文から長文へ、定型文から自分で考え発信するとい

う流れを意識した。

C領域では単元名に教材名の混在が見られた。教材を教えることにのみ重点を置いてしまう授業から、指導目標を明確にし、指導事項を精選した授業へ、という考えが表れるよう単元名を統一した。なおA・B領域においても単元名を領域内で統一している。

領域ごとの関連性にもさらに配慮した。1学期のC領域「叙述に即して読む(随想)」の後にB領域「随筆文」を配置したり、3学期のC領域「構成を確かめながら読む」、B領域「説明文を書く」、A領域「討論する」、B領域「意見文を書く」に一連の流れを持たせたりと、他領域との関連を意識した。このような工夫は各校で既になされていると思われるが、年間を通して予め計画することが必要であるし、各領域の関連性は、指導目標である言語能力を生徒が身につける手助けとなるばかりでなく、評価後の指導の受け皿にもなり得る。

「国語総合」年間の指導と評価の計画表について

学期・月	3学期制を想定
単元名	欄の下に【A01】とあるのは「学習指導要領のA(話すこと・聞くこと)の領域の第1番目の単元である」ことを示している。
指導事項	学習指導要領「2 内容」に示されている項目を示した。ABC各領域と〔言語事項〕それぞれのア、イ…に対応している。
単元の目標	「関心・意欲・態度」「話す・聞く/書く/読む能力」、「知識・理解」の3点にわたって育成したい言語能力を示した。
評価の観点 単元の評価規準 評価方法	前の「単元の目標」に基づいて評価の観点を記号で示した。評価の重点化を図り、「単元の目標」に対応する評価の観点を「○」で記入した。その評価の観点を具体化したのが「単元の評価規準」で、それに基づいた指導者の評価の動きが「評価方法」である。なお、「単元の評価規準」は「B=おおむね満足できると判断できる状況」について記述した。
学習活動 (指導内容)	具体的な授業の内容を記した。
言語活動	ここには学習指導要領の「3 内容の取り扱い(配慮事項)やその中の「言語活動例」(3 内容の取り扱い(2)ウ、(3)イ、(4)エ)、さらに関連した言語活動を示した。
教材等	実際にこの表を各学校で活用する際には、この欄に使用教科書の文章名、単元名などが入ることになる。ここでは汎用性を高めるために具体的な教材名、文章の題名は入っていない。
他教科などとの 関わり	国語の授業で学んだ言語能力を他の教科や学習活動で発揮することによって定着させる必要がある。ここでは他教科だけでなく、「総合的な学習の時間」や学校図書館、特別活動・学校行事との関連の可能性を示唆した。国語科のその他の科目との関連は省略した。
時数	表末の備考「※5」に示すように、1学期を13週52時間、2学期14週56時間、3学期8週32時間として各領域、単元に時数を振り分けた。指導時数総計についても表の枠内の末にまとめた。

#### 4 今後の活動

この「年間の指導と評価の計画」の指導順や時数は、各学校の生徒の実態や教育目標・他教科からの要請等で変更が必要となるだろう。私たちも、様々な研究会や他の実践から多くを学ばせて頂きながら、より適切でより魅力ある生徒の学習活動を探求し続けたい。

全国連大会の後から、「年間の指導と評価の計画」の再構成を行ってきたが、次回の会合からは、領域ごとの指導案作成、授業実践による事例研究を進めていくことになる。今回の発表で、実践事例を加えられなかったことは残念であるが、次回にはぜひ、報告させて頂きたい。

(小林 清香)

【国語総合】年間の指導と評価の計画（フロムT/2008.2.15改訂第4版）

学期	学月	指導事項			単元の目標	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	学習活動(指導内容)	言語活動	教材等	他教科などとのつながり	時数
		A	B	C		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力							
1	4				①国語を尊重してその向上を図る態度を身に付ける工夫をする。(関心・意欲・態度)	◎			①国語を適切に表現し理解する能力を高め、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育て	①国語総合の学習の目的を理解する。 ②年間の指導と評価の計画・評価方法・使用教材を確認する。 ③国語の学力の自己評価をし、一年間の学習に備える。		年間の指導と評価の計画・評価方法・使用教材の断片		2	
		ア		ア	①相手を意識して分かりやすく話す。(関心・意欲・態度) ②話の内容を効果的に相手に伝える。(話す・聞く能力) ③状況に合った言葉遣いについて理解する。(知識・理解)	○	○	○	①聞き分けが得意とする。(関心・意欲・態度) ②話し手の理解や納得が得られる話をしていく。(話す・聞く能力) ③自分の場にあった言葉遣いを身に付けていく。(知識・理解) ④読むことに対する意欲を高め、態度を整える。(関心・意欲・態度) ⑤文章を読み進めながら自分の考えをもち、読み進めたいところを伝えたりしようとする。(読む能力)	①スピーチの方法を学ぶ。スピーチメモを活用し、スピーチを行う。 ②スピーチの自己評価と相互評価を行う。	スピーチ			4	
				イ	①読むことを楽しむこととする。(関心・意欲・態度) ②文章を読み進めながら自分の考えをもち、読み進めたいところを伝えたりしようとする。(読む能力)	◎			①行動の観察(関心・意欲・態度) ②記述(スピーチメモ)の分析(話す・聞く能力) ③記述(スピーチメモ)の点検(知識・理解)	①小説を音読する。 ②小説を読んだ感想を交換し合う。 ③書いた感想を書く。		小説		現 4	
				ウ	①ことばを意欲しながら文章を書く。(関心・意欲・態度) ②書く手帳の工夫を工夫する。(書く能力) ③書く手帳の工夫を工夫する。(書く能力)	○	◎	○	①行動の観察(関心・意欲・態度) ②記述(ワークシート)の分析(書く能力) ③記述(ワークシート)の点検(知識・理解)	①随書を使用しながら随書を書く。 ②随書を読み進めながら随書を書く。 ③随書を読み進めながら随書を書く。 ④「ことば」を意識する。	話し合い			現 4	
5			ウ	オ	①ことばを意欲しながら文章を書く。(関心・意欲・態度) ②書く手帳の工夫を工夫する。(書く能力) ③書く手帳の工夫を工夫する。(書く能力)	○	○	○	①前単元の随書の中から、随書を読み進めながら随書を書く。 ②随書を読み進めながら随書を書く。 ③随書を読み進めながら随書を書く。 ④随書を読み進めながら随書を書く。	随書				3	
				エ	①古典を学習する意欲を育て、その内容を理解する。(関心・意欲・態度) ②文の体や表現の特色を捉え、その魅力を味わう。(読む能力) ③文のさきま、訓読のさきま、国語の特色などを理解する。(知識・理解)	○	○	◎	①行動の観察(関心・意欲・態度) ②記述(ワークシート)の分析(知識・理解) ③記述(ワークシート)の点検(知識・理解)	①文語や訓読のさきまを学ぶ。 ②古文や漢文を音読し、独特の韻律やリズムを味わう。 ③古語辞典や漢和辞典を使用し、語句の意味や用法を理解する。 ④古文や漢文の現代語訳をする。	音読 暗唱		古文(説話) 漢文(故事) 小説		古 4、漢 6
					①記述(ワークシート)の分析(知識・理解)	○	○	○	①これまでの学習内容の定着を確認し、今後の学習に備える。			ペーパー テスト		2	
6			ウ	オ	①効果的な表現を考へて書く。(関心・意欲・態度) ②文章の内容、形式、表現上の特色に注意をする。(書く能力) ③語句や漢字の構造の仕組みを理解する。(知識・理解)	○	○	○	①分析や吟味の成果を表現に取り入れようとする。(関心・意欲・態度) ②発想の豊かさや構成の着実さを生かして書く。(書く能力) ③和語、漢語、英語、外来語の使い方を身に付けていく。(知識・理解)	①分析や吟味の成果を表現に取り入れようとする。(関心・意欲・態度) ②発想の豊かさや構成の着実さを生かして書く。(書く能力) ③和語、漢語、英語、外来語の使い方を身に付けていく。(知識・理解)	随書			2	
					①効果的な表現を考へて書く。(関心・意欲・態度) ②文章の内容、形式、表現上の特色に注意をする。(書く能力) ③語句や漢字の構造の仕組みを理解する。(知識・理解)	○	○	○	①分析や吟味の成果を表現に取り入れようとする。(関心・意欲・態度) ②発想の豊かさや構成の着実さを生かして書く。(書く能力) ③和語、漢語、英語、外来語の使い方を身に付けていく。(知識・理解)	①分析や吟味の成果を表現に取り入れようとする。(関心・意欲・態度) ②発想の豊かさや構成の着実さを生かして書く。(書く能力) ③和語、漢語、英語、外来語の使い方を身に付けていく。(知識・理解)	随書			2	



内容に正確に読む(1)	ア	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 意図的な読みにならない工夫を要する。(関心・意欲・態度) ② 脈を考えながら論理的な文章を読み込む。(読む能力) ③ 文章の構成を理解する。(知識・理解)	要約文	評論	現 6
【C04】 定型文を書く	ア	オ	○	○	○	○	○	○	○	① 相手や目的に応じて文章を書く工夫をする。(関心・意欲・態度) ② 想像力を働かせながら古典的文章をまよりにして書く工夫をする。(書く能力) ③ 相手や目的に応じて文章の構成を理解する。(知識・理解)	通知文 手紙	特別活動・総合的な学習の時間	4
【B03】 表現に即して読む(1)	ウ	エ	○	○	○	○	○	○	○	① 磨かれた表現や文体を読み味わう。(関心・意欲・態度) ② 想像力を働かせながら古典的作品を読みまよりにして読む工夫をする。(読む能力) ③ 文脈のまよりにして読む工夫をする。(知識・理解)	音読	古文(物語)	古 6
【C05】 様々な文章を読む	エ	エ	○	○	○	○	○	○	○	① 自ら選んで読むように工夫をする。(関心・意欲・態度) ② 様々な文章を読んで筆者の意図や見方をとらえる。(読む能力)	読書	学校図書	現 3
【C06】 定期考査(2)	ア	エ	○	○	○	○	○	○	○	① これまでの学習内容の定着度を確かめる。	ペーパーテスト	ペーパーテスト	2
紹介文を書く	ア	エ	○	○	○	○	○	○	○	① 表現力を向上させるための工夫をする。(関心・意欲・態度) ② 読まれた文章を分析・吟味し自分の表現に取り入れる工夫をする。(書く能力) ③ 単語や慣用語などの語彙の意図を理解する。(知識・理解)	紹介文	学校図書	3
【B04】 詩歌を読む(1)	ウ	オ	○	○	○	○	○	○	○	① 現代詩・漢詩の人物・情景・心情に基づいて朗読する。(関心・意欲・態度) ② 人物・情景・心情などを吟味し味わう。(読む能力) ③ 現代詩・漢詩の形式・表現技法を学ぶ。(知識・理解)	読み比べ 朗読	現代詩	現 3・漢 4
【C07】 人物に注目して読む	ウ	エ	○	○	○	○	○	○	○	① 文学作品を読んで豊かな心情や態度を養う。(関心・意欲・態度) ② 人物を把握しながら文章を楽しむ工夫をする。(読む能力) ③ 語句の意味や用法を文章の中で理解する。(知識・理解)	音読	小説	現 6
【C08】 記録文を書く	ア	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 目的に応じてより多くの情報を収集する。(関心・意欲・態度) ② 収集した情報を整理・分類し正確に文章で表現する。(書く能力) ③ 目的に応じて文や文章の組み立てを理解する。(知識・理解)	記録文	記録文	4
【B05】	イ	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 相手や目的を意図して、文章を書く。(関心・意欲・態度) ② 相手や目的を考えて、情報を整理・分析して書く。(書く能力) ③ 相手や目的に応じて語句の使用法を理解する。(知識・理解)	報告(説明)	報告(説明)	6

インターニュー	イ	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 他者や身の回りの事柄に関する情報を聞き出す。 ② 相手から話を聞き出す。 ③ インターニューの仕方やマナーについて理解する。(知識・理解)	報告(説明)	報告(説明)	6
【A02】 定期考査(3)	ア	イ	○	○	○	○	○	○	○	① これまでの学習内容の定着度を確かめる。	ペーパーテスト	ペーパーテスト	2
報告文を書く	ア	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 相手や目的を意図して、文章を書く。(関心・意欲・態度) ② 相手や目的を考えて、情報を整理・分析して書く。(書く能力) ③ 相手や目的に応じて語句の使用法を理解する。(知識・理解)	報告文	報告文	4
【B06】 表現に即して読む(2)	ア	エ	○	○	○	○	○	○	○	① 磨かれた表現や文体を読み味わう。(関心・意欲・態度) ② 内容を的確に読み取り要約する。(読む能力) ③ 要約に必要な情報を読み取る。(知識・理解)	要約文	漢文(史話)	漢 4
【C09】 ものの見方や感じ方などについて読む(1)	エ	ウ	○	○	○	○	○	○	○	① 現代文と古文を読み比べる工夫をする。(関心・意欲・態度) ② 書かれたものの見方や感じ方を味わう。(読む能力) ③ 常用漢字の読み方を理解する。(知識・理解)	読み比べ 朗読	現代文 古文(随筆)	現 5・古 5
【C10】 詩歌を読む(2)	イ	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 声を出して積極的に読む。(関心・意欲・態度) ② 人物・情景・心情などを表現の特色ととらえて読み味わう。(読む能力) ③ 短歌や和歌の形式や特徴・表現技法を理解する。(知識・理解)	読み比べ 朗読	短歌 和歌	現 4・古 4
【C11】 定期考査(4)	ア	エ	○	○	○	○	○	○	○	① これまでの学習内容の定着度を確かめる。	ペーパーテスト	ペーパーテスト	2
内容を正確に読む(2)	ア	エ	○	○	○	○	○	○	○	① 作品のおもしろさや特質を理解する。(関心・意欲・態度) ② 文脈を把握しながら書き手の考えを確かめる。(読む能力) ③ 古文読解に必要な文法の基礎を理解する。(知識・理解)	音読	古文(日記 紀行)	古 4
【C12】 もの見方や感じ方などについて読む(2)	エ	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 人間や社会について考える工夫をする。(関心・意欲・態度) ② 文章を讀んで人間の生きかたや考えを深める。(読む能力) ③ 学校図書などから情報を収集する。(知識・理解)	暗唱 レポート	漢文(思想)	漢 5
【C13】	イ	イ	○	○	○	○	○	○	○	① 相手や目的を意図して、文章を書く。(関心・意欲・態度) ② 相手や目的を考えて、情報を整理・分析して書く。(書く能力) ③ 相手や目的に応じて語句の使用法を理解する。(知識・理解)	暗唱 レポート	漢文(思想)	漢 5

4	4	6	6	2	1
特別活動・総合的な学習の時間	特別活動・総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	公民科・総合的な学習の時間		
情報を読み取り	説明文	討論(話し合い)	意見文	ペーパーテスト	学習評価アンケート
① 議論を読み取り、語句の意味を正しく理解し、文章の構成を考察し、必要に応じて読み取らなければならない情報を整理し、説明文を書き、説明文の相互評価と自己評価を行う。	① 説明文の書き方を学ぶ。② 図表を読み取り、言葉で説明する。③ 情報を整理し、説明文を書く。④ 説明文の相互評価と自己評価を行う。	① 討論の方法を学ぶ。② グループに分かれて討論する。③ 討論の相互評価・自己評価をする。	① 前単元の議論をもとにして、意見文の書き方を学ぶ。② 意見文の書き方を学ぶ。③ 意見文の書き方を学ぶ。④ 意見文の書き方を学ぶ。⑤ 他者の意見を参考に、意見文を書く。	① これまでの学習内容の定着度を確認し、今後の学習に備える。② 一年間の学習活動を振り返り、今後の学習の目標を立てる。	
① 行動の観察、記述(ノート・ワーキングシート)の確認(関心・意欲・態度)② 行動の観察、記述(ノート・ワーキングシート)の確認(関心・意欲・態度)③ 記述(ワーキングシート)の確認(知識・理解)	① 行動の観察、記述(ワーキングシート)の確認(関心・意欲・態度)② 記述(ワーキングシート)の確認(関心・意欲・態度)③ 記述(ワーキングシート)の確認(知識・理解)	① 記述(ワーキングシート)の確認(関心・意欲・態度)② 行動(発言・関心・意欲)の確認(関心・意欲・態度)③ 記述(ワーキングシート)の確認(知識・理解)	① 行動の観察、記述(自己記入用紙)の確認(関心・意欲・態度)② 記述(ワーキングシート)の確認(知識・理解)③ 記述(原稿用紙)の確認(知識・理解)	① 記述(ワーキングシート)の確認(関心・意欲・態度)② 記述(原稿用紙)の確認(知識・理解)	
① 文章の構成を理解し、筆者の考えを読み取る。② 文章の構成を理解し、筆者の考えを読み取る。③ 文章の構成を理解し、筆者の考えを読み取る。④ 文章の構成を理解し、筆者の考えを読み取る。	① 客観性を意識して書くこととして、自分の考えを正確に伝える。② 相手の考えを尊重し、自分の考えを伝える。③ 正確に伝えることができていないことを意識し、必要に応じて書き直す。	① 様々な意見を読み取りながら話し合う。② 相手の意見に耳を傾け、自分の意見に添わせる。③ 自分の意見の明確さを高める。	① 意見文の目的を理解し、自分の意見を書く。② 意見文の構成を理解し、自分の意見を書く。③ 意見文の書き方を学ぶ。	① 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。② 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。③ 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。	① 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。② 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。③ 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。
○	○	○	○	○	○
◎	○	○	○	○	○
○	○	○	○	◎	○
① 論理の展開を理解し、筆者の考えを読み取る。② 論理の展開を理解し、筆者の考えを読み取る。③ 論理の展開を理解し、筆者の考えを読み取る。	① 相手の考えを正確に伝える。② 相手の考えを尊重し、自分の考えを伝える。③ 正確に伝えることができていないことを意識し、必要に応じて書き直す。	① 話し合いを通して考えを深める。② 相手の考えを尊重し、自分の考えを伝える。③ 正確に伝えることができていないことを意識し、必要に応じて書き直す。	① 自分の考えを明確にする。② 相手の考えを尊重し、自分の考えを伝える。③ 正確に伝えることができていないことを意識し、必要に応じて書き直す。	① 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。② 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。③ 国語を適切に表現し、自分の考えを伝える。	
【C14】説明文を書く	【B07】討論する	【A03】意見文を書く	【B08】定期考査(5)	オリエンテーション	

※1 指導事項1「評価の観点」については、それぞれの内容を領域・事項ごとに記号で示す。(特に重点的に評価するものには◎を付けて示す。)

※2 「評価の観点」については、それぞれの内容を領域・事項ごとに記号で示す。(特に重点的に評価するものには◎を付けて示す。)

※3 「単元の評価規準」については、「B規準(おおもねの観点)」については、国語科の他科目とのかがわりについては省略して示す。

※4 「他教科などとのかがわり」については、国語科の他科目とのかがわりについては省略して示す。

※5 1学期13週(52時間)、2学期14週(56時間)、3学期8週(32時間)として年間の指導と評価の計画を作成して示す。

指導時数総計140時間(A話し・聞くこと16時間/B書くこと30時間/C読むこと81時間/定期考査等3時間)

II 18年度研究

系統性を重視した指導と評価のあり方  
—国語総合「書くこと」から見た場合—

1 研究の目的

フロムTでは今年度、昨年度作成した「国語総合 年間の指導と評価の計画」の実践及び改善を主題として、研究に取り組んできた。「国語総合」の内容である「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各領域の指導事項に関して、年間を通して計画的に指導するという系統性と、総合的な言語能力を養うために各領域について相互に密接な関連を図りながら効果的に指導するという領域間の関連性の2点について実践に基づいて検証することを目的とした。

その中で今回は、領域内での系統性や他領域との関連性が示しやすい「B 書くこと」に視点を置き、検討を進めた内容について発表する。

2 研究の枠組み

- (1) 「年間の指導と評価の計画」の見直し
- (2) 「B 書くこと」についての「単元の指導と評価の計画」の作成と検討

今年度作成した「B 書くこと」の「単元の指導と評価の計画」は以下の通りである。

B01 随筆文を書く・B02 広告文を書く・B03 定型文を書く・B04 紹介文を書く  
B05 記録文を書く・B06 報告文を書く・B07 説明文を書く・B08 意見文を書く

また、「B 書くこと」との関連性を考慮し、「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」について、以下の単元の「単元の指導と評価の計画」を作成した。

A03 討論する・C14 構成を確かめながら読む

これらの領域相互の関連については2ページに図を示す。

さらに、検討を進めていく中で「○○文」という文種について、どう定義し指導していくかが問題となった。そこで今回私たちは改めて文種の定義について検討し、共通理解を図ったうえで授業実践を行うこととした。文種の定義については3ページに示す。

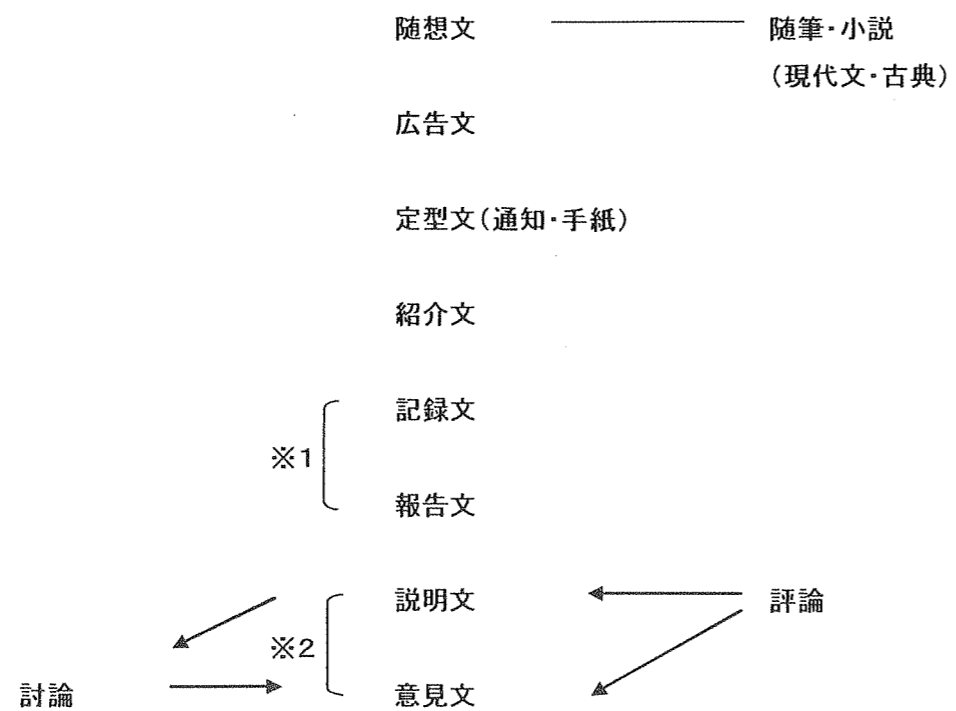
(3) 各領域の系統性を重視した授業実践

「B 書くこと」の各単元について、作成した「単元の指導と評価の計画」をもとに年間を通して授業実践を行うとともに、「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」との関連を図りながら系統的な指導を進めた。

【A領域】

【B領域】

【C領域】



※1、※2

- ※1 事実(記録)から主張(報告) 時間と共に動くもの観察、記録しを再構成する。
- ※2 事実(説明)から主張(意見) 整理されている事実を根拠に主張をする。

【文種の定義づけ】

随筆文

ある事実について思い浮かんだことを自由に述べた文章。  
(ものの見方の新鮮さ、切り込みの独自の角度、切れ味の良さなどがあると良い。)

広告文

不特定多数の相手に内容を伝え、共鳴させる文章。  
(宣伝、標語、勧誘など)

定型文

ある特定の形式に従って述べた文章。  
(手紙文、通知文、届け出文など特定の相手に向けた文章が多い。)

紹介文

ある事柄を紹介する文章。

記録文

ある事柄について、事実をありのままに記録する文章。  
(メモ、日記など)  
(特定の相手はいない。)

そのままにしておくこと変化してしまう事柄を言葉で残す。  
客観的に事実のみを扱い、主観的な意図を排除する。

報告文

ある事柄や問題について、調査・観察した結果を整理した結果を整理してまとめ、それらの原因、理由、結果を推論したり、考察したことを客観的に述べたりする文章。  
(レポート、報道文など。)

説明文

ある事柄を筋道立てて、分析的に解説・説明する文章。  
(図表、他の事柄との比較対照など、具体的な情報を整理し、知らない人にも分かりやすく伝える。)

意見文

ある事柄や問題について、読み手を説得するために、自分の意見や主張を筋道立てて述べる文章。

- (論説明、小論文など)
- (論理性、客観性が重要)

根拠(論拠)を明確にする。

※感想文…自分の感想や思いを中心に述べた文章。



### 3 各領域の具体的な関連

#### (1) 年間指導計画での各領域の関連

- 1 学期 C01 叙述に即して読む → B01 随筆文を書く
- 1 学期 C06 様々な文章を読む → 2 学期 B04 紹介文を書く
- 2 学期 B05 記録文を書く → A02 インタビューする → B06 報告文を書く
- 3 学期 C14 構成を確かめながら読む → B07 説明文を書く → A03 討論する → B08 意見文を書く

#### (2) 指導案概要および実践報告

##### 「構成を確かめながら読む」(C領域) 4時間

《言語活動の有効性》

- ・ 読むために書く。
- 《他領域との関連》
- ・ グラフを含んだ文章を読み取る。
- ・ 論理的文章の構成を理解し、事実と筆者の意見を読みとる。

##### 「説明文を書く」(B領域) 4時間

《説明文の特徴》

- ・ 自分の意見は書かず、事実を客観的に過不足なく記す。
- 《他領域との関連》
- ・ 段落構成を論理的に組み立てる。
- ・ 非連続型テキストを読み取る。

##### 「討論する」(A領域) 6時間

《段階を経た活動》

- ・ 二人、グループ、全体で話し合う。
- 《他領域との関連》
- ・ 根拠に基づき自分の意見を述べる。
- ・ 話す順番を工夫する。

##### 「意見文を書く」(B領域) 6時間

《評価》

- ・ 客観的判断に基づき自己評価する。
- ・ 評価者としての視点を養う。
- 《他領域との関連》
- ・ 習得した力を活用する。

#### (3) 領域間の関連の有効性

- ア 身に付けた力を繰り返し活用することにより言語能力は定着するため、各領域を関連させた活動内容が有効である。
- イ 領域間の関連が指導の受け皿や、評価の負担軽減となる。

年間指導計画の必要性

### 各領域の関連の事例

		C領域 (読むこと)	B領域 (書くこと)	A領域 (話すこと・聞くこと)	B領域 (書くこと)
		「構成を確かめながら読む」	「説明文を書く」	「討論する」	「意見文を書く」
学習指導要領との関連	指導事項	Cイ 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。	Bイ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。	Aウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと。	イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。
	言語事項	イ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。	イ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。	イ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。	イ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。
指導案(単元の目標)	関心意欲態度	論の展開を理解し、環境問題に関心を持って読む。	相手にわかりやすく伝えるための工夫をする。	話し合いを通して自分の考えを深める工夫をする。	自分の考えを持ちながら書く工夫をする。
	能力	論理的な文章の構成の特色を知り、段落の関係を読み取る。	自分が読み取った情報を過不足なく正確に、相手に伝える。	相手の立場や考えを尊重しながら話し合う。	自分の考えをまとめ、それを相手に効果的に伝える。
	知識理解	語句・グラフの意味を理解し、必要な情報を読み取る。	文章の中での語句の適切な使い方を理解する。	自分の考えを効果的に表現する方法を理解する。	正しく語句を選ぶことの重要性を理解する。
他領域との関連	構成	構成を理解する。	段落構成を論理的に組み立てる。	話す順番を工夫する。	論理的な構成を意識して書く。
	根拠	事実と意見とを区別して読み取る。	事実を客観的に書く。	根拠に基づき自分の意見を述べる。	根拠を明確にした意見を書く。
	資料	グラフの意味をとらえる。	非連続型テキストを正確に読解する。	図表やグラフ等の資料を読み取る。	参考資料を探し有効活用する。

## 単元の指導と評価の事例（C 読むこと）

### 4 成果

まず、「B 書くこと」の各単元について、文種の定義づけを行ったことにより、指導者自身の文種についての理解が深まった。それにより、生徒に対して「相手意識・内容・表現」といった3点を意識した「B 書くこと」の指導を展開することができた。年間を通して、何を「書く」力を生徒につけたいのか、という点を明らかにして系統的に指導することができたと考える。

また、「年間の指導と評価の計画」を「B 書くこと」を中心に具体化し、実践授業を行ったことにより、「年間の指導と評価の計画」の有効性（これを用いることにより生徒の力を適切に伸ばすことができること）を、部分的にはあるが検証することができた。

### 5 課題

今回、「B 書くこと」の各単元を年間を通して系統的に指導したが、生徒が「書く力がついた」と実感できるようになるには、まだまだ時間がかかると思われる。授業で学んだことについて即効性を求める生徒に対して、ここで学んだことが今後どのように生きるのか、継続的な指導を通して実証していくことが大切だと考えられる。

また、生徒の学習活動としての相互評価や自己評価といったものを、さらに有効に活用できるような指導と評価の計画を考えていくことも今後の重要な課題である。

（松原 志保・小林 清香）

### 1 単元名

「構成を確かめながら読む」【C14】（4時間）

### 2 年間指導計画上の位置づけと本単元のねらい

国語総合の読むことのまとめとして、論理的文章の構成を理解したり、事実と意見を読み取ったり、効果的な表現の特色をとらえたりすることをねらいとする。

教材は、三橋規宏『環境再生と日本経済』「序」p4～10〔岩波新書（新赤版）924 2004年12月21日〕を使用する。非連続型テキストの一種であるグラフを含んだ文章であるが、文章以外の情報をグラフで表現しているわけではなく、筆者の主張を展開するためのグラフである。

また、B領域「書くこと」の「意見文を書く」やA領域「話すこと・聞くこと」等との関連を図り、言語の機能としての論理的思考力の育成を目指す。

さらに、現代を生きる中で環境問題に関して、グラフ等を含んだ文章を読み、関心を持って読み取り、表現された思考等について（熟考・評価も含めて）考察するよう留意する。

### 3 単元の目標

- ① 論の展開を理解し、環境問題に関心を持って読もうとしている。（関心・意欲・態度）
- ② 論理的な文章の構成の特色を知り、段落の関係を読み取る。（読む能力）
- ③ 語句・グラフの意味等を理解し、必要な情報を読み取る。（知識・理解）

### 4 単元の評価規準

- ① 文章の構成を理解し、環境問題に関する筆者の考えを読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度）
- ② 段落相互の関係、論の展開を押さえて、内容を読み取っている。（読む能力）
- ③ 文章・語句やグラフの意味をとらえている。（知識・理解）

### 5 指導と評価の計画（4時間扱い）

時	各時間の目標	単元の評価規準	評価方法	学習活動
1	○文章の構成を理解する。 ○筆者の問題意識を理解する。	①（関心・意欲・態度）  ②（読む能力）	行動の観察 記述の確認 （ノート・ワークシートの記入状況） 定期考査	○通読する。語句の読みを確認する。課題として難解な語句の意味調べする。 ○環境問題と生活について、発言する。 ○学習の目標を理解する。 ○三段落構成を理解し、段落に分ける。 ○第一段落を理解する。
2	○筆者の問題に対する思考の内容を理解する。	②（読む能力）	行動の観察 記述の確認 （ノート・ワークシートの記入状況）	○文中における語句の定義を理解する。 ○第二段落の内容を理解する（グラフを読み取る）。

	③ (知識・理解)	況) 定期考査	○意味調べプリントを提出する。
3	○筆者の問題に対する結論を理解する。 ○段落相互の関係を理解する。	② (読む能力) 行動の観察 記述の確認 (ノート・ワークシートの記入状況) 定期考査	○第三段落の内容を理解する。 ○第一段落から第三段落までを整理し、段落相互の関係を確認する。
4	○筆者のものの見方・考え方に対して、自分の意見を持つ。	② (読む能力) 行動の観察 記述の確認 (ノート・ワークシートの記入状況)	○文章の叙述に即して、自分の意見を書く。 (理解のための意見文の作成)

- ※ 第2～4時についても、「関心・意欲・態度」は評価していく。
- ※ ② (読む能力) については、第3時で主に評価するが、第1・2時を通してそれぞれ評価していく。
- ※ ここでの③ (知識・理解) については、「意味調べ」ワークシートの記入状況による授業時間外での評価となる。

## 6 各時間の評価と指導の実際

### 【第1時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○通読する。 ○語句の読み・意味を確認する。	◇テキストをよく読んでいるか、見て回る。 ◇プリントの記入をしているか、机間指導する。 ◆調べる作業は家庭学習とするため、授業内では正しい「読み」の記入を判断のよりどころとする。	○教材準備の確認 ○プリントの記入ができていないか確認する。
○環境問題と生活について、考えを整理する。	◇環境問題を実生活の中でどのようにとらえるのか、発言させる。 ◆発言の内容・態度を判断のよりどころとする。	○発言の内容・聴く態度等を観察する。
○段落の構成を理解し、三段落に分ける。	◇序論・本論・結論の構成を捉え、三段落に分けさせ	○机間指導によりワークシートやノ

【十分満足できる (A) と判断できる生徒の具体例】  
●「読む能力」段落に分け、第一段落の内容を理解している。  
●「関心・意欲・態度」意味調べをし、ワークシートに記入している。

○第一段落に示された問題意識を理解する。	る。 ◆筆者の論の展開に即して、文章を区切れたかどうかを判断のよりどころとする。 ◇根拠と意見を理解させ、『地球の破局』『資源循環型』とはどのようなことかを読み取らせる。 ◆教材準備、及びノート記入を判断のよりどころとする。	ートの記述を確認する。 ○机間指導によりワークシートやノートの記述を確認する。
----------------------	---	--

【努力を要する (C) と判断される生徒への手だての例】  
●「読む能力」キーワードに留意させ、段落を分けるよう指示する。  
●「関心・意欲・態度」プリント・ノートの不足を補うように指示する。

### 【第2時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○文中における語句の定義を理解する。 ○グラフを読み取る (第二段落の内容を理解する。)	◇「社会的厚生」「自然の利用」について筆者の定義をまとめ、「環境許容限度」とは何かを考えさせる。 ◇グラフ「自然満足度曲線」とそれについて文章化した第二段を読み取り、筆者の「時代認識」とは何かを考えさせる。 ◆語句の定義を理解しているかどうかを判断のよりどころとする。	○机間指導によりワークシートやノートの記述を確認する。 ○机間指導によりワークシートやノートの記述を確認する。
○意味調べプリントを提出する。		○プリントの記述を点検する。

【十分満足できる (A) と判断できる生徒の具体例】  
●「読む能力」筆者の語句の定義や「時代認識」をまとめることができる。  
●「知識・理解」語句の意味を理解し、語彙を豊かにしている。

【努力を要する (C) と判断される生徒への手だての例】  
●「読む能力」プリント・ノートの不足を補うように指示する。  
●「知識・理解」ワークシートを完成させ、語彙を豊かさせる。

【第3時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○第三段落の内容を理解する。	◇第一段に示された問題意識に対する結論をまとめさせる。 ◆「資源循環型社会」「足るを知る」等の語句を用いてまとめられているかどうかを判断のよりどころとする。	○机間指導によりワークシートやノートの記述を確認する。
○第一段落から第三段落までを整理し、段落相互の関係を確認する。	◇序論・本論・結論の構成について内容を深めた上で確認させる。	○机間指導によりワークシートやノートの記述を確認する。

【十分満足できる (A) と判断できる生徒の具体例】  
●「読む能力」キーワードを用いてまとめられている。

【努力を要する (C) と判断される生徒への手だての例】  
●「読む能力」黒板を用いて適語補わせ、まとめさせる。

【第4時】

学習活動	指導 (◇) と 評価 (◆) の留意点	評価の実際
○筆者のものの見方・考え方に対して、自分の考えを整理する。	◇文章の叙述に即して自分の意見を書かせる。 「地球は限界」「循環型社会」「生活の満足度」「環境許容限度」「足るを知る」等について、内容をふまえて400～600字程度でまとめる。 ◆教材文章の叙述からはずれない内容となっているかどうかを判断のよりどころとする。	○机間指導により記述を確認する。

【十分満足できる (A) と判断できる生徒の具体例】  
●「読む能力」筆者の考えを理解し、工夫して記述している。

【努力を要する (C) と判断される生徒への手だての例】  
●「読む能力」語句や筆者の意・主張を確認させる。

7 単元全体の評価

(1) 努力を要する (C) と評価される生徒への単元終了後の指導

関心・意欲・態度	同様の内容に関する平易な文章をもう一度、読ませる。
読む能力	段落・構成についてのワークシートを改めて提出させ、論理的な思考を意識させる。
知識・理解	文中の語句やグラフの意味を考えさせる。

(2) 生徒の変容

環境問題に関して、「自然満足度曲線」を視点とする論理的な文章を読むことにより、自己を取り巻く世界をどう見るか、その問題点をどう整理していくかという一つの方法を身につけることができる。また「読むこと」を通して段落構成を理解することで、論理的思考力を身につけることができる。さらに、文章・グラフを読み取り、必要な情報を得る力を養うことができる。

(3) 改善の視点

「構成を確かめながら読む」学習活動であるが、4時間目に「書く」学習を行った。これは、学習者が批評的に読むことを目標にしたものであり、本文の構成を理解し、内容を読み取っているかを見る学習活動である。また、次の「書くこと」の学習との関連も図ったものである。

今回は、指導者が環境問題に関する論理的な文章を教材化していったが、生徒自身が問題意識をもっている人文・社会・自然科学分野などの構成の明確な連続型・非連続型テキストを探させて、教材化していくこともできるのではないかと。また、少人数毎に課題を設定し、プリント等を作成しながら、相互に発表していくグループ学習活動を行っていくこともできるのではないかと。

(木村 美保子、古宮 才由里、高井 秀実、高山 実佐)

〔j〕 形式段落⑤～⑮

3 筆者が問題提起をしている部分を抜き出そう。

4 自然満足度曲線についてまとめてみよう。

縦軸―〔k〕

社会的厚生とは

横軸―〔l〕

自然の利用とは

B点―自然が備えている〔m〕、生態系が維持される限界点。

5 自然満足度曲線のB点についてまとめてみよう。

B点の左側―生活水準を向上させることが可能。

一方通行型経済システムが効率的

自然の利用が増えるほど、生活の満足度も〔n〕

しかし

B点の右側―自然の利用が増えるほど、生活の満足度は〔o〕

6 自然の利用量と生活の満足度が比例しない理由をまとめてみよう。

7 筆者は現在の私たちがどのような状況でどうすべきだと考えていますか。

小さく、そしてもろくなった地球 三橋規宏

組	番	名前	点
---	---	----	---

宿題プリント― 月 日提出

語句調べ

飽く
疲弊
枯渴
劣化
破綻
生態系
利便性
奨励
理念

感想(三行以上)

〔結論〕形式段落⑯～⑳

8 問題提起に対する結論をまとめよう。

9 段落構成について確認しよう。

〔序論〕：導入部であるとともに、筆者の「問題意識」が示されている。  
 〔本論〕：「問題提起」がされており、問題に対する筆者の見解が示されている。  
 〔結論〕：問題の解決方法を述べている。

作者の主張について、気になった部分を抜き出してみよう。

抜き出した部分に対して、あなたの意見を六百字程度でまとめよう。

◎『小さく、そしてもろくなった地球』では、筆者三橋規宏の主張を読み取り、段落の構成を確認して読みましょう。

◎筆者の主張に対して意見をまとめよう。

◎環境問題の例を挙げてみよう。

1 段落構成を考えながら読んでみよう。

段落構成には・・・ 起承転結型 と 序論本論結論型 があります。

『環境問題と日本経済』は「a」型 の文章です。

どちらか考えて、各自段落分けをしてみよう。

〔b〕	形式段落①～④		
〔c〕	〔d〕	〔e〕	〔f〕
〔g〕	〔h〕	〔i〕	〔j〕

2 二十世紀から二十一世紀にかけての地球の状況をまとめよう。

〔c〕による豊かさの追求によって疲弊した。

〔f〕 ↓ 「地球の限界」 地球は狭くもろい存在

「地球の限界」への対処法

〔g〕 〔h〕 (型社会) ↓ 〔i〕 型



単元の指導と評価の事例 (B 書くこと)

1 単元名

「説明文を書く」【B07】(4時間)

2 年間指導計画上の位置づけと本単元のねらい

本単元では、説明文を「ある事柄を筋道立てて、分析的に解説・説明する文章」と定義する。説明文の書き方について学ばせ、実際に目的に沿った文章を作成することで、読解で求められる要素や正確さについて理解し、表現の技能を身に付けさせることをねらいとしている。普通の国語科教科書の教材としてはなかなか取り上げられないことがないが、日常生活ではメディアにもよく登場し、また小論文作成においては資料として不可欠の要素である非連続型テキスト(表・グラフ等)を、教材とした。非連続型テキストを正確に読解し他者に説明する力をつけることで、自らの明確な意見を持つための姿勢を養いたい。

年間指導計画の中では、「書くこと」の領域として既に「記録文」「報告文」を学習した。ここでは、事実をふまえて主張する、という流れが意識されている。そこで、1年間の「書くこと」のまとめとして「意見文」を書く前段階として「説明文」を置いた。事実を根拠として主張するという流れをさらに強化するためである。

また、他領域との関連として、「C 読むこと」において論理的文章を正確に読解する「評論文」を学習した後に本単元を置き、その後、「A 話すこと・聞くこと」において自らの意見を主張する「討論」を学習した上で「意見文」に至る、という流れを設定している。

3 単元の目標

- ① 相手にわかりやすく伝えるための工夫をする。(関心・意欲・態度)
- ② 自分が読み取った情報を過不足無く正確に、相手に伝える。(書く能力)
- ③ 文章の中での語句の適切な使い方を理解する。(知識・理解)

4 単元の評価規準

- ① 推敲を重ねながら書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ② 平易な用語を心がけ、内容を正確に伝えようとして書いている。(書く能力)
- ③ 正確に伝えるために語句を適切に使うことができている。(知識・理解)

5 指導と評価の計画(4時間扱い)

時	各時間の目標	単元の評価規準	評価方法	学習活動
1	○「説明文」について理解する。	①関心・意欲・態度	行動の観察 ワークシートの記述の確認	○「説明文」の練習文例と図表をマークしながら読むことで「説明文」に必要な要素について考える。 ○ワークシート1で「説明文」作成のために図表を読みとる練習に取り組む。 ○今後の学習の進行方法について理解する。 ワークシートは提出する。

2	提示された資料(図表)を読み取る。	①関心・意欲・態度	ワークシートの記述の点検	○資料A~Dをワークシート2に沿って読み取る。 ワークシートは提出する。
3	○説明文を作成する。	②書く能力 ③知識・理解	ワークシートの記述の点検 原稿用紙の記述の点検	○今まで読解した資料から説明文に使用するものを二つ選ぶ。 ○ワークシート3に沿って説明文作成のための段落構成を練る。 ○「説明文」を書き、提出する。
4	○作成した説明文について推敲して完成させる。 ○相互評価を行う。	①関心・意欲・態度 ②書く能力	行動の観察 評価票の記述の確認	○グループに分かれ、メンバーの作成した説明文を読み、相互評価する。 ○授業者によるまとめをする。

6 各時間の評価と指導の実際

【第1時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
○「説明文」の文例を、マークしながら読むことで「説明文」に必要な要素について考える。 ○ワークシート1に記入する。 ○図表を読みとる練習に取り組む。  ○今後の学習の進行方法について理解する。	◇正確な説明のために必要な要素について考えさせる。  ◆「練習課題から説明に必要な要素を抜き出している」ことを判断のよりどころとする。	○練習課題への取り組みを、机間指導により確認する。 ○ワークシートへの記入を確認する。

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】  
●「関心・意欲・態度」  
・練習課題を全て記入している。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】  
●「関心・意欲・態度」  
・記入できない生徒には、注目すべき箇所のヒントを与える。

【第2時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
<p>○資料A～をワークシート2に沿って読み取る。</p> <p>ワークシートは提出する。</p>	<p>◇資料を詳細且つ正確に読み取らせる。</p> <p>◆「説明文を作成することを意識して資料を読み取ろうとしている」を判断のよりどころとする。</p>	<p>○ワークシートへの取り組みを机間指導によって確認する。</p> <p>○提出されたワークシートの記述を点検する。</p>

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】  
●「関心・意欲・態度」  
・与えられた資料を正確に読解している。

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】  
【Cの生徒への手だての例】  
●「関心・意欲・態度」  
・資料読解の着眼点を与える。

【第3時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
<p>○今まで読解した資料から説明文に使用するものを二つ選ぶ。</p> <p>○ワークシート3に沿って説明文作成のための段落構成を練る。</p> <p>○「説明文」を書く。</p>	<p>◇他者に正確に伝えることを意識した段落構成を考えさせる。</p> <p>◇段落構成に沿って、論理の展開が明確になるように書かせる。</p> <p>◇自分の考え・意見が紛れ込まないように気をつけさせる。</p> <p>◆「段落構成に沿って的確に表現している」を判断のよりどころとする。</p>	<p>○机間指導によって記述を点検する。</p> <p>○提出された原稿の記述を点検する。</p>

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】  
【Aと判断できる生徒の具体例】  
●「書く能力」  
・段落構成が論理的に組み立てられている。  
・論理的な構成と的確な用語で記述している。

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際

【努力を要する(C)と判断される生徒への手だての例】  
【Cの生徒への手だての例】  
●「書く能力」  
・的確な用語の例を示す。

【第4時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
<p>○作成した説明文について推敲し、完成稿にする。</p> <p>○グループに分かれ、メンバーの作成した説明文を読み、相互評価する。</p> <p>○相互評価から自分の不足点とできている点を把握する。</p>	<p>◇客観的な視点から評価をつけさせる。</p> <p>◇評価を通して正確な記述についての考えを深めさせる。</p> <p>◆「相互評価後に再度の気づきがあり、他者の表現の良いところを認めている」を判断のよりどころとする。</p>	<p>○相互評価への取り組みを観察する。</p> <p>○評価票の記述を確認する。</p>

【十分満足できる(A)と判断できる生徒の具体例】  
【Aと判断できる生徒の具体例】  
●「知識・理解」  
他者の評価を積極的に受け止めている。

【Cの生徒への手だての例】  
●「知識・理解」  
客観的な視点のヒントを与える。

7 単元全体の評価

(1) Cと評価した生徒への単元終了後の指導

関心・意欲・態度	平易な内容の非連続型テキストでの練習に取り組みさせる。
書く能力	自己の作成した説明文に推敲を加え、完成稿を再度提出させる。
知識・理解	的確な説明のための語彙力強化に取り組みさせる。

(2) 学習指導の成果

非連続型テキストを読み取って説明させることにより、事実を客観的に述べることを意識して文章を書くことができた。また、相互評価を通して考えることで、独りよがりにならずに他者に説明することの大切さと適切な用語選びに気づくことができた。

(3) 改善の視点

非連続型テキストの読解段階での生徒の抵抗感を授業者が理解することが大切である。事実をとらえることへの関心と意欲の継続により、その後の文章作成に抵抗無く移行できると考えられるからである。また、事実の説明には主観を交えない、ということをも文例や読解の練習だけでなく、相互評価から気づかせることで、逆に意見を持つことの重要性への認識が高まると考えられる。

(池田 美穂)

ワークシート1

年 組 氏名

以下の手順に従って課題を進めなさい。このワークシートのみ提出。別紙は保管しておくこと。

- 1 「出生と死亡の動向」「都道府県の人口構成」の資料(別紙両面)について
  - ①まず、左側の「説明文」を読みなさい。
  - ②「説明文」中に、右側のグラフや図表などから読み取れる内容が記載されていたら、文と図表の両方の該当箇所にマーカー(色ペンで印)をつけなさい。
- 2 1の作業を終えてから、説明文に必要なこと(説明文に求められる要素)を考えて、箇条書きで書きなさい。
- 3 自分で図表やグラフを説明するための練習をしてみよう。文中の空欄を埋めなさい。

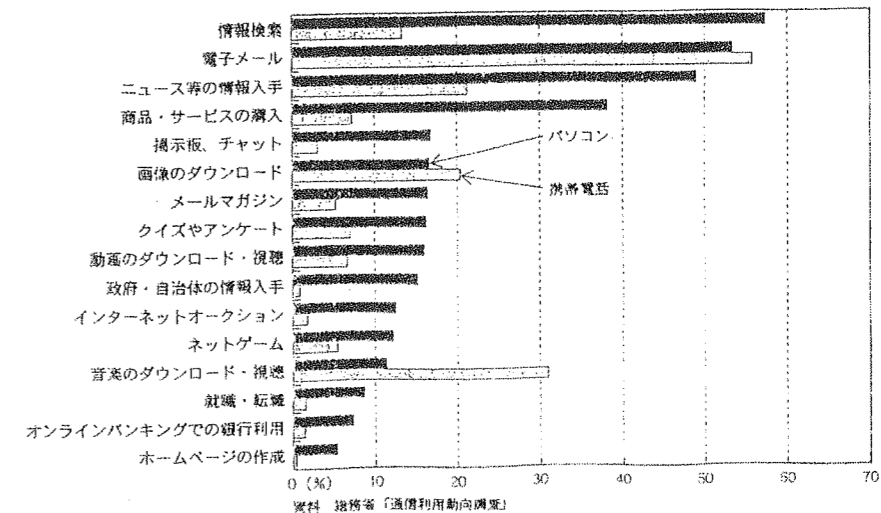
23.5 インターネットの用途 最も利用するのは情報検索

過去 間にインターネットを利用した人の用途別割合を見ると、パソコンによる利用者では、「 」(57.3%)が最も高く、次いで「 」(53.3%)、「 」(48.9%)、「 」(38.0%)となっており、情報獲得手段としての利用が多い。

一方、 による利用者の用途では、「電子メール」(55.8%)が最も高く、次いで着信メロディなどの「 」(31.0%)、「 」(21.3%)、待ち受け画面などの「 」(20.4%)となっており、情報獲得とともに携帯電話を自分好みに設定するためのサービスの利用が上位に来ている。

また、パソコンと携帯電話の用途の幅を比べてみると、 からの利用は多岐にわたっているのに対して、 からの利用は幾つかに集中する傾向が見られる(図23.5.1)。

図23.5.1 インターネットの主な用途(過去1年間にインターネットを利用した人)(2004年)



4.2 都道府県の人口構成 人口高齢化は日本全土で進展

2000年の性比(女100人当たりの男の数)を見ると、全国は95.8で、女が男の数を上回っている。都道府県別については、100を上回っているのは、109.1の神奈川県を始め、埼玉、千葉、愛知であるが、残りの43都道府県は100未満となっており、最低は鹿児島県の88.4である(表4.2)。

2000年における15~64歳(生産年齢)人口の割合は、埼玉(72.2%)を筆頭に、神奈川県、千葉、大阪、愛知、京都、奈良、兵庫、茨城など大都市圏とその周辺の都道府県で全国値(67.9%)を超えている。一方、島根(60.4%)が最も低く、鹿児島、山形、高知、鳥取、秋田では63%未満である。65歳以上人口の割合(高齢化率)が全国値(17.3%)を超えているのは、島根(24.8%)を始め、高知、秋田、山形、鹿児島など34道府県である。一方、この割合が最も低いのは埼玉(12.8%)である(表4.2)。

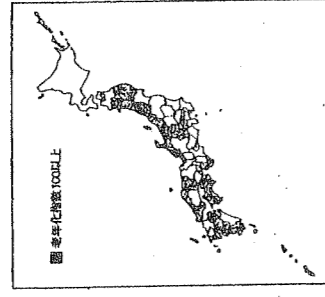
2000年の老年化指数(65歳以上人口の0~14歳人口に対する比率)は、全国値の119.1に対して、最も低いのは沖縄(69.1)で、埼玉、愛知、滋賀、神奈川県、千葉が100未満である。しかし、高知(171.6)を始め、秋田、島根、山口など、大部分の41都道府県では100以上となっており、老年人口が年少人口を上回っている。1995年において、老年化指数が100以上であったのは22都府県であったので、この5年間で、人口の高齢化が日本全国でさらに進んだことが分かる(図4.2.1、図4.2.2)。

平均世帯人員の最大は山形の3.25人、最小は東京の2.21人

1世帯当たりの平均世帯人員は、2000年において、最大は山形の3.25人である。全国値の2.67人を下回るのは、最小の東京(2.21人)、北海道、鹿児島、高知、大阪、神奈川県など13都府県である。一方、山形を除く、奈良、神奈川など13都府県の県で低くなっている。

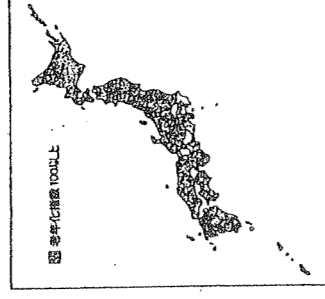
また、単独世帯の割合において、2000年の全国値27.6%を上回るのは、東京(40.9%)、京都、福岡、鹿児島、北海道、大阪など10都府県である(表4.2)。

図4.2.1 老年化指数が100以上の県 (1995年)



資料 総務省統計局「平成7年国勢調査報告書(国勢調査報告)」

図4.2.2 老年化指数が100以上の県 (2000年)



資料 表4.2.1と同じ。

表4.2 都道府県の性比、年齢階級別割合及び世帯構造指標 (2000年)

Table with 10 columns: 都道府県, 性比, 生産年齢人口割合(%), 高齢化率(%), 平均世帯人員, 単独世帯割合(%), 世帯平均人数, 世帯平均人数(15歳未満), 世帯平均人数(15歳以上), 世帯平均人数(65歳以上). Rows list 47 prefectures and national averages.

資料 総務省統計局「平成11年国勢調査報告書(国勢調査報告)」

「説明文を書け」 説明文練習文例(フロンティア資料)『2006統計の日本』

2.4 出生と死亡の動向(2) 続く晩産化と少子化の傾向

粗出生率も、前節で述べた粗死亡率と同様に、年齢構成の影響を受ける。そこで、女性の年齢階級別出生率を見ると、30~39歳から40~44歳における1975年以降の上昇を除いては、1950年以降、全般的に、各年齢階級で出生率が低下し続け、実質的な出生の水準も低下していることが知られる。また、75歳以降の出生率も最も低い25~29歳層の著しい低下の反面、35歳~39歳層の上昇が見られ、顕著な晩産化の傾向が認められる(図2.4.1)。

出生の遅延な水準を示す合計出生率(15~49歳の女性1人当たりの産んだ子どもの数)を見ると、1920年代の5人から1930年代~40年代には4.0~4.5人となり、1950年には3.65人を記録した後、1960年代~70年代前半には、西暦(ひのえうま)の影響による急低下があった66年の1.58人を除いては、2.00~2.10人の水準を維持した。しかし、1970年代の後半には、低下に転じ、85年に1.76人を示した後、89年には1.46人を記録した後、94年に1.50人となり回復したが、97年に1.39、99年に1.34に低下した。2000年には1.36人と僅かに上昇したが、2001年に1.33、2003年には1.29を示し、2004年も1.29である。これは、合計出生率が1.3人のイタリアやドイツなどと同じ水準であり、少子化傾向はさらに続いている(図2.4.2、図2.4.3)。

日本人の平均寿命は世界最長

死亡の遅延な水準を表す指標である平均寿命(出生時の平均余命)を見ると、日本人のそれは、1921~25年には男が42.1年、女が43.2年であり、太平洋戦争前には男女ともに50年に満たなかったが、戦後の1947年に男が50.1年、女が54.0年を記録して以来、急速に伸びを始め、60年には男が65.3年、女が70.2年、80年には男が73.4年、女が78.8年となり、95年には男が76.4年、女が82.9年、2004年には男が78.6年、女が85.6年を記録した。国連推計による1995~2000年における世界人口(総数)の平均寿命は64.6年(先進国では74.9年、発展途上国では62.9年)であり、長寿国と呼ばれるスウェーデンでも79.3年で、日本人の平均寿命(80.5年)は世界最長である。これは、男女別に見ても、同様である(図2.4.4、図2.4.5)。

図2.4.1 女性の年齢階級別出生率の推移

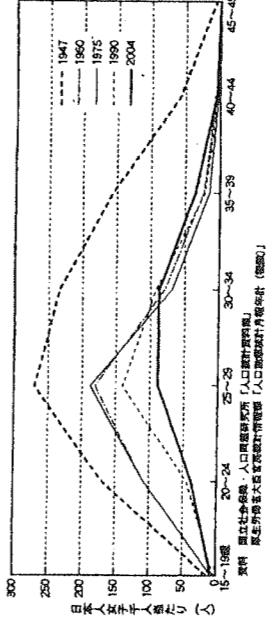


図2.4.2 合計出生率の推移 (1950~2004年)

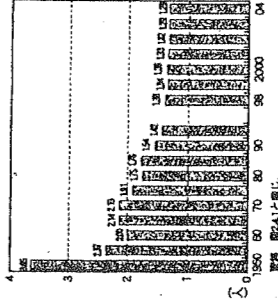


図2.4.4 平均寿命の推移

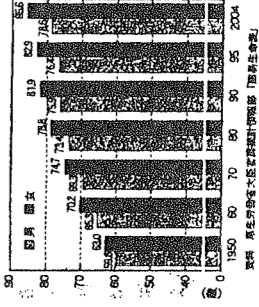
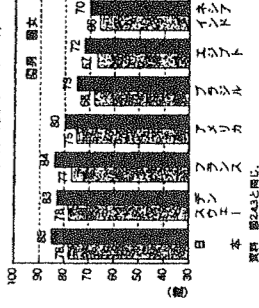


図2.4.5 平均寿命の国際比較 (2003/04年)



ワークシート2

年 組 氏名

以下の手順に従って課題を進めなさい。このワークシートのみ提出。別紙は保管しておくこと。

1 資料A「男女年齢別構成」について、

- ① グラフを参考にして空欄を埋めなさい。
- ② グラフの情報には無い文章記述にアンダーラインをつけなさい。
- ③ この説明文の筆者は、他にどのような資料を参考をしていたと考えられるか。

2.5 男女年齢別構成 世界一の高齢社会

2000年における日本の男子人口は6211万人、女子人口は6482万人で、女100人当たりの男の数(性比)は95.8である。1990年前後における他の国々の性比と比較すると、イタリア、フランス、イギリスなどの西欧諸国とはほぼ同じであり、インド、中国などの発展途上諸国よりはかなり低い。

図2.5.1は、1920年と2000年における日本の年齢各歳別人口に基づき作成した人口ピラミッドである。 年には、 の年齢層が非常に大きくなるほど小さくなる、いわゆる富士山型を呈しているが、 年には、子どもの年齢層がその上の成年層に比べて小さく老年層が相対的に大きい、いわゆるつば型を呈して、高齢化の進展が顕著に現れている。

総人口に占める 人口の割合を見ると、日本は、1950年には僅かに4.9%であったが、その後上昇し、 年7.1%、85年 %、90年12.1%、 年には14.5%、2000年には %、2004年には19.5%(推計)を記録している。この割合は、2000年におけるスウェーデン(17.3%)、イギリス(15.5%)、アメリカ(12.6%)、オーストラリア(11.4%)などよりかなり高く、日本は、西欧諸国以上の高齢化の水準を示し、世界一の高齢社会に入ったと言える。日本は、この割合が5%であった1950年から13%を示した1992年まで42年を要したが、スウェーデンは115年、イタリアは110年、イギリスは60年で、 の速度は非常に (図2.5.2)。

資料 A

図2.5.1 全国の男女年齢各歳別人口(1920年・2000年)

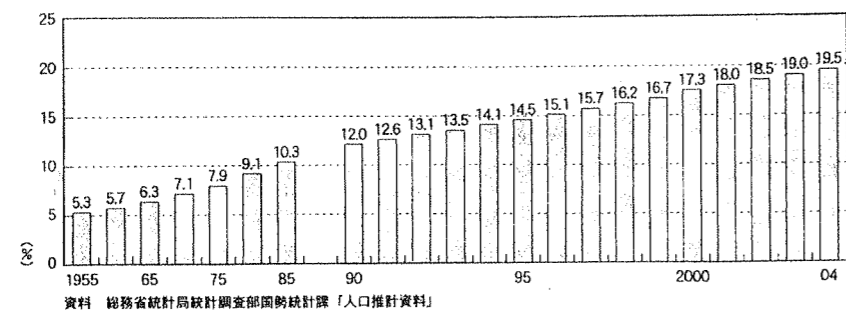
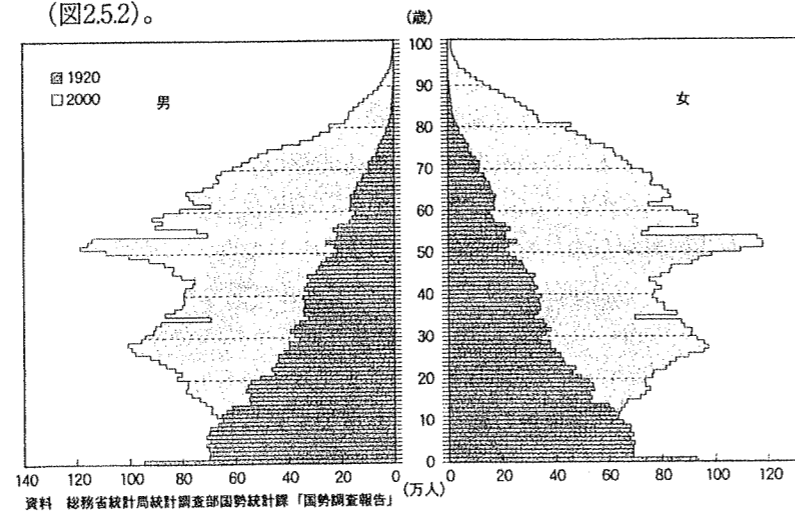


図2.5.2 65歳以上人口の割合の推移

2 資料B「要介護者、介護費」の図表から読みとれることを書きなさい。

① 図 10.5.1

② 図 10.5.2

③ 図 10.5.3

3 資料C「労働時間・有給休暇」の図表から読みとれることを書きなさい。

① 図 13.1.1

② 図 13.1

③ 図 13.1.2

④ この3つの図表から読みとったことを簡単にまとめてみよう。

4 資料D「産業分類別従業者」の図表から読みとれることを書きなさい。

① 図 17.2.1

② 図 17.2.2

③ 図 17.2.3

④ この3つの図表に現れている変化と関係している社会現象は何か考えてみよう。



表10.5.1 要介護認定者数(2005年3月末現在)

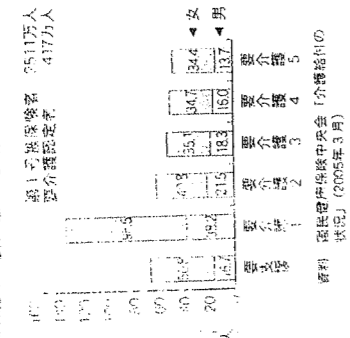


図10.5.2 介護費と対前年度増加率(2004年度)

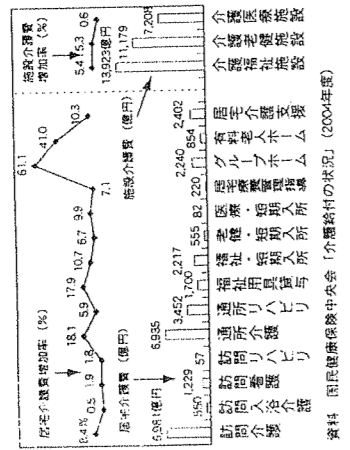


図13.1.1 月間総労働時間(男女計)

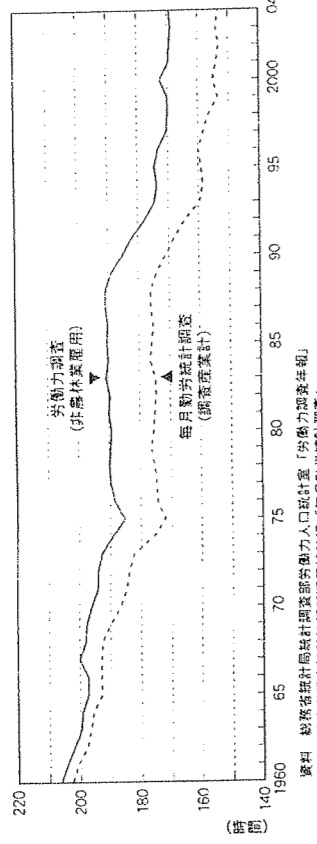


図10.5.3 都道府県別要介護認定者率(2004年度末)

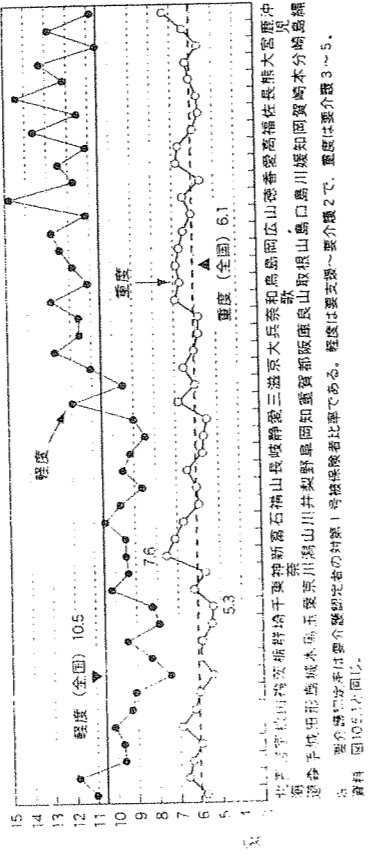


表13.1 週休制度の実施方法

Table showing the implementation of the 5-day workweek system by industry sector from 1970 to 2004. It includes columns for the year, the percentage of companies implementing the system, and the percentage of employees covered.

図13.1.2 1人平均年次有給休暇の付与日数・取得日数

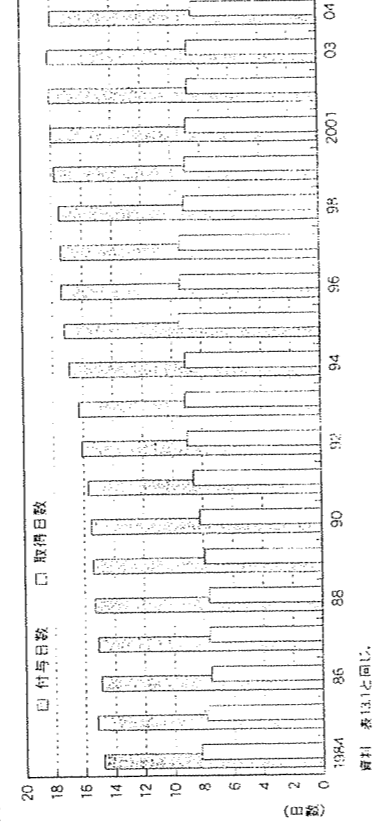


表17.2.1 産業大分類別従業者数の構成比の推移-非農林漁業(民営)

Table showing the composition ratio of employees by major industry sector in the private non-agricultural sector from 1963 to 2001. The table shows a shift from manufacturing and construction towards services and information industries.

資料 総務省統計局統計調査部事業所・企業統計室「事業所・企業統計調査報告」

表17.2.2 産業大分類別事業所数及び従業者数-非農林漁業(民営)

Table showing the number of establishments and employees by major industry sector in the private non-agricultural sector from 1999 to 2004. It includes growth rates and annual rates for both establishments and employees.

資料 表17.2.1と同じ。

表17.2.3 産業中分類別従業者数(民営)

Table showing the number of employees by sub-industry sector in the private sector from 1999 to 2004. It highlights the top 10 sectors with the highest and lowest growth rates.

資料 表17.2.1と同じ。



★説明文についての評価表

年 組 氏名

①相互評価（評価者名： )

評価項目	A	B	C	D	コメント
表記の適切さ（誤字脱字、言い回し）					
文章構成の適切さ					
説明内容（資料読解）の正確さ					
説明文としてのわかりやすさ					
総合評価					

②相互評価（評価者名： )

評価項目	A	B	C	D	コメント
表記の適切さ（誤字脱字、言い回し）					
文章構成の適切さ					
説明内容（資料読解）の正確さ					
説明文としてのわかりやすさ					
総合評価					

③相互評価（評価者名： )

評価項目	A	B	C	D	コメント
表記の適切さ（誤字脱字、言い回し）					
文章構成の適切さ					
説明内容（資料読解）の正確さ					
説明文としてのわかりやすさ					
総合評価					

④ ①②③の評価を受けて感じたこと・気づいたこと・考えたこと